

自主防災組織の活動強化支援策の検討について

1. 概要

平成 21 年度、長浜市（長浜土木管内区域）および米原市では、市の警戒避難体制構築を支援することを目的とした土砂災害警戒避難地図を作成した。また、長浜市上草野地区では、作成した土砂災害警戒避難地図を基に、災害時の危険性を周知すること、行政では知り得ない地域特有の情報を抽出することを目的としたワークショップを開催し、抽出した地域特有の情報を土砂災害警戒避難地図に反映させる取り組みを行った。さらに、ワークショップ前後において、土砂災害に対する意識変化を調査することを目的としたアンケート調査を実施し、ワークショップが防災教育として有効であり、災害に対する意識を向上させる効果があることを確認した。

ここでは、これまでの実施内容を踏まえた平成 22 年度実施内容について、これまでの取組事例の他地区への展開（案 1）および上草野地区における次なるステップへの展開（案 2）の 2 案を示す。

2. これまでの実施内容

2.1 土砂災害ハザードマップの作成

長浜市（長浜土木管内）および米原市を対象とし、土砂災害警戒区域等の土砂災害に関する情報や避難場所などの防災情報を登載した土砂災害ハザードマップを作成した。

<対象地区>

長浜市（長浜土木管内）、米原市

<作成種類>

- ・土砂災害が狭域で発生する現象であることを考慮した詳細図版（図-1 右図）
- ・災害時の避難行動範囲を考慮した作成範囲が小学校区の広域図版（図-1 左図）

<ハザードマップの構成>

- ・基図：航空写真
- ・登載情報：土砂災害警戒区域等、避難所、防災施設、災害時要援護者施設、浸水想定区域、水路等

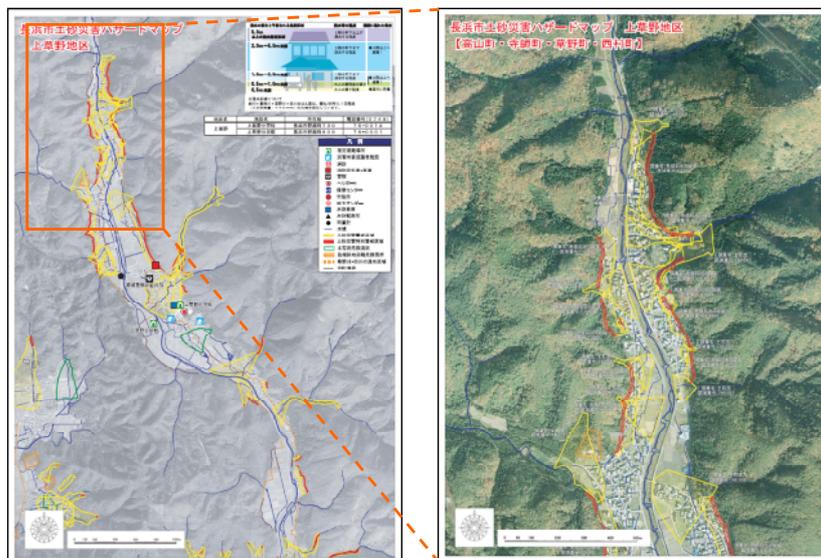


図-1 土砂災害ハザードマップ（案）

2.2 土砂災害ハザードマップを活用したワークショップによる住民への防災教育及び地域特有の情報の抽出

災害時の危険性の周知および地区特有の情報の抽出を目的とし、平成22年6月19日(土)に長浜市上草野地区を対象にしたワークショップを開催した。ワークショップでは、地区内の自治会において防災活動時にリーダー的な役割を果たす方々を対象に、災害図上訓練(DIG)という形式で議論を行い、抽出した意見を土砂災害ハザードマップに反映した。また、ワークショップ前後でアンケート調査を実施し、土砂災害に対する意識の変化について調査した。

グループ討論の様子



グループ発表の様子



成 果 品



【ワークショップの問題提起】

対象地区の特徴を踏まえ、以下のような課題を与え、グループ討論を行った。

--【課題1】-----

<目的>

- ・ 災害が起こった時の周りの状況について考える。
- ・ 地域住民でしか知らない情報を抽出する。

<内容>

上草野地区の状況について考えてください。

あなたの住んでいる地域には、土砂災害が発生する恐れのある場所が沢山存在します。もしも土砂災害が発生した場合、あなたの周りではどのような状況になっているか想像してください。

- ・ 過去に被災した経験や災害が起こった場所を聞いたことはありませんか。
- ・ 土砂災害は、主に大雨が原因となって起こります。道路や川、用水路などの状況はどのようになっていますか。

--【課題2】-----

<目的>

- ・ 災害時の避難について考えもらい、避難時の注意点を抽出する。
- ・ 地域全体の避難(共助)について考える。

<内容>

自分自身で避難することについて考えてください。

大雨が続き、外では避難を呼びかける放送が流れています。あなたは、避難所まで歩いて避難することにしました。避難する時に何に気をつけますか。課題1で挙げたことも含めて、考えてみてください。

- ・ 防災行政無線で長浜市から避難勧告が発令されています。
- ・ あなたの住んでいる地域の特徴(人口や年齢構成など)を踏まえた避難行動について考えてみてください。

表-1 抽出された住民の声

【過去の災害と教訓】

高山町・草野町（1班）	
1	宅地の裏山から大きな石が落ちる。
2	伊勢湾台風の時落橋した。
3	伊勢湾台風の時土石流が発生し家屋が埋まった。
4	こつ合谷で水が出て、道路を流れる。
5	用水路に土砂がたまりやすく、川底が高くなってきているため溢水する可能性がある。
6	普段はあまり水も流れていないが、大雨になると水が溢水している。
7	用水路が道路の下を通過して木の根が詰まったことがあったため溢水する可能性がある。
寺師町・西村町・太田町（2班）	
8	伊勢湾台風等で土石流が発生し、家屋に土石が入った。
9	土石流の危険があると認識している。
10	木が倒れてくる時があり危険である。
11	土砂崩れにより板杭川がはん濫する。
野瀬町・郷野町（3班）	
12	溢水の時、公民館への避難ができない。（道路の冠水）
13	以前、草野川・大吉寺川合流点で浸水した。
鍛冶屋・岡谷（4班）	
14	伊勢湾台風の時家の二階まで土砂が入ってきた。
15	伊勢湾台風の時橋が流された。
16	伊勢湾台風の時家が2件土石流で流された。
17	伊勢湾台風の時ひざ上まで浸水し高所へ避難した。家が四件流された。
18	伊勢湾台風の時土石流が発生した。
19	伊勢湾台風の時護岸がえぐられた。
20	伊勢湾台風の時田んぼが流れてしまった。
21	伊勢湾台風の時道路が流された。
22	水路から水が溢れると道路を分断する。

【災害発生時の避難行動と注意点】

高山町・草野町（1班）	
1	1人暮らしの老人宅は、現在、面倒を見ていただく人を決めている。避難時には、1人では避難が困難な方への支援が必要である。
2	土砂災害警戒区域の中に自治会の避難所があるため、状況を把握し避難する必要がある。
3	川西の住民が避難場所に行く時、橋を使用しなくてはならない。
4	避難路は、中道を利用する。
寺師町・西村町・太田町（2班）	
5	組単位で行っている避難訓練を参考に避難する。
6	警戒情報が出る前に老人を避難させる。
7	隣人に一声掛け避難する。
8	二～三回位の食事（おむすび）を持って避難する。
9	川やがけを避けて避難する。
10	各家庭の人員を確認する。（一人暮らしや老夫婦も）
11	がけの下は、土石や木が倒れてくるため、避難の時に注意する。
野瀬町・郷野町（3班）	
12	増水時に草野川や大吉寺川が溢水することがあるため避難の時は十分注意する。
13	一旦、センターや公民館に避難し、小学校に避難する。
14	地域（おとなり）の協力により高齢者等の避難を支援する。（高齢者避難マニュアルがある。）
15	河川の溢水により谷間の集落の避難経路が遮断される可能性がある。避難のタイミングを考えておく必要がある。
鍛冶屋・岡谷（4班）	
16	避難のタイミングが難しいため、判断できる指標を考えておく必要がある。
17	夜は街灯が少なく暗いため、足元に注意する。
18	大雨により川がはん濫する可能性があるため、草野川の水位（増水）に注意が必要である。
19	鍛冶屋地区の西側と岡谷地区では、上草野小学校や上草野公民館への避難は遠く避難時に災害に巻き込まれる危険がある。
20	傾斜地なので逃げる時の危険性を考えると逃げないほうが安全なのではないか。逃げる・逃げないの判断をする必要がある。

もともと災害に対する意識の高い上草野地区においても、ワークショップの開催により更に意識レベルが上昇することを確認した。

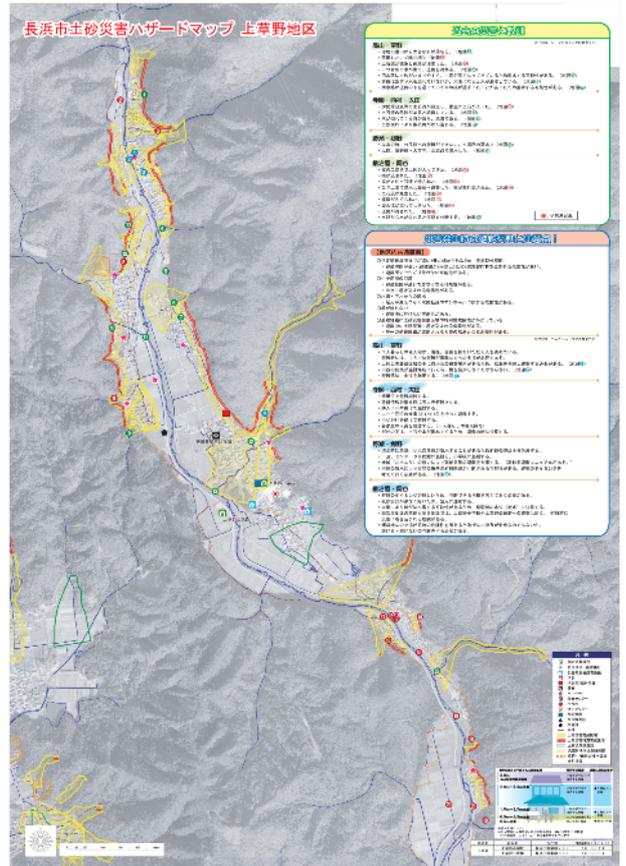
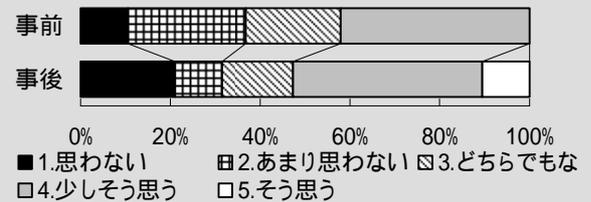
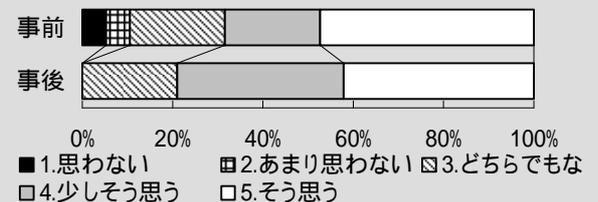


図-2 住民の声を反映させたハザードマップ
(注：右上表の内容は、表-1と同じである。)

質問1. 住んでいる地域が今後10年以内に土砂災害に遭うと思いますか。



質問3. 土砂災害対策は行政だけでなく、個人や地域も実施すべきだと思いますか。



質問6. 土砂災害対策は、施設整備だけに頼るのではなく避難等、地域で対応する必要があると思いますか。

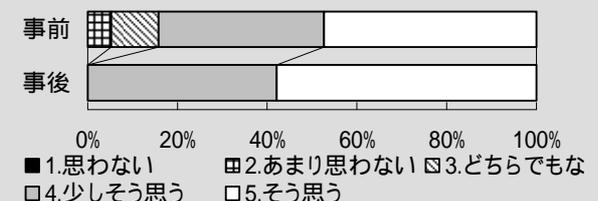


図-3 アンケート調査結果

3. 平成 22 年度実施内容（案）

これまでの取り組み内容を生かし、自主防災組織を活性化させることを目的とした平成 22 年度取り組み内容（案）について、これまでの取組事例の他地区への展開（案 1）および上草野地区における次なるステップへの展開（案 2）の 2 案を以下に示す。

3.1 これまでの取組事例の他地区への展開（案 1）

上草野地区で実施したワークショップでは、ワークショップ前後のアンケート調査よりワークショップの効果が確認された。平成 22 年度は、これまでと同様の取り組みを他地区へ展開することで他地域での事例を収集し、自主防災組織を活性化させるための問題点を抽出する。また、自主防災組織の活性化につながる取り組みの普及・促進のための支援策を検討する。

3.2 上草野地区における次なるステップへの展開（案 2）

ワークショップを行った上草野地区において、成果を基に次なるステップへと展開し、自主防災組織の活性化を図る。

自主防災組織を十分に機能させるためには、図-4 に示す段階を踏むこと必要である。ワークショップでは、<気づき>を与えることを目的とした。平成 22 年度は、次のステップの「体験」「自助」「共助」へと取り組みを展開する。

ワークショップ開催の中で、地域全体の災害に対する問題点を抽出し、問題に対する役割分担（行政、地域、家族、自分）を明確にし、対応策を検討する。最終的には、上草野地区避難行動計画の作成を目指す。

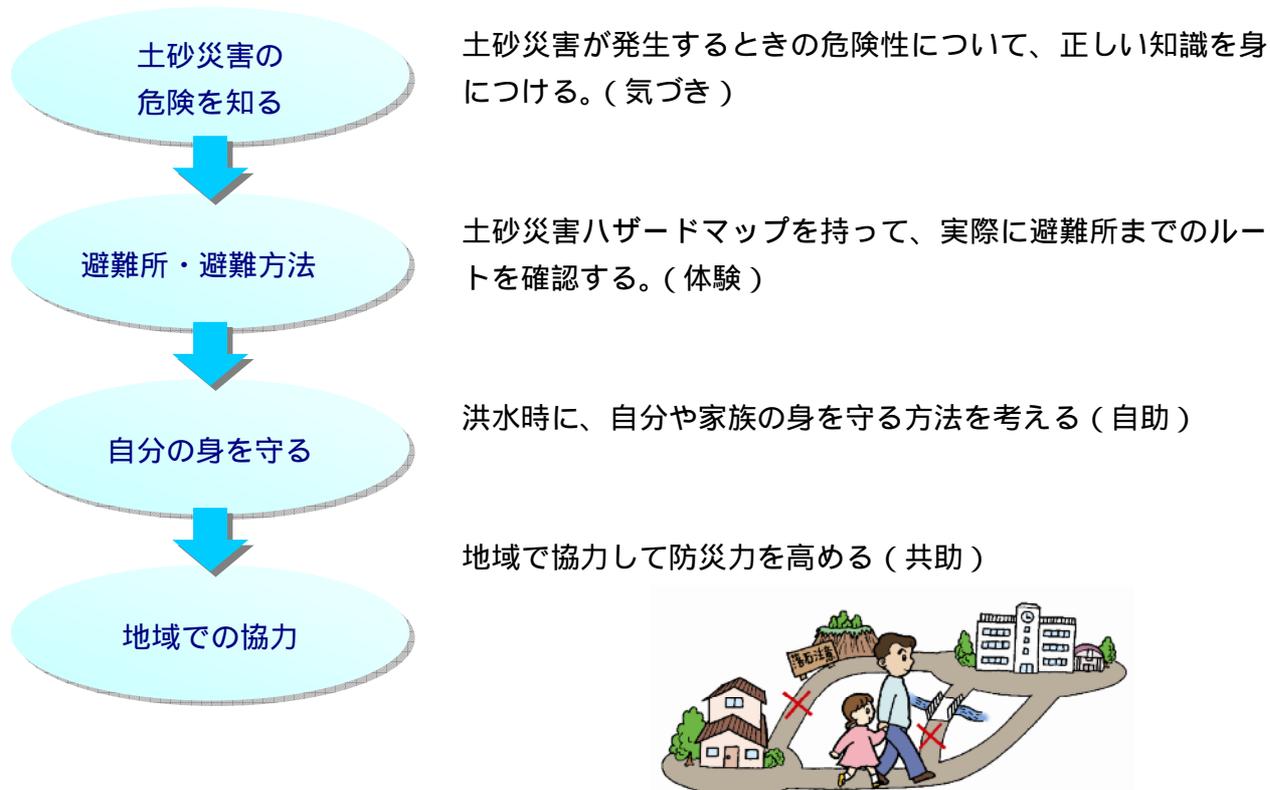


図-4 自主防災組織を十分に機能させるために必要な段階（例）

4. 平成 22 年度の自主防災 WG の実施スケジュール(案)

自主防災 WG 対象市町：長浜市、米原市

	開催時期	内 容
第 1 回 自主防災 WG	11 月 24 日	・上草野地区でのワークショップの報告 ・平成 22 年度の方向性について
第 2 回 自主防災 WG	未定	・未定
第 3 回 自主防災 WG	未定	・未定